

図3-1 妊婦の健康診査能力

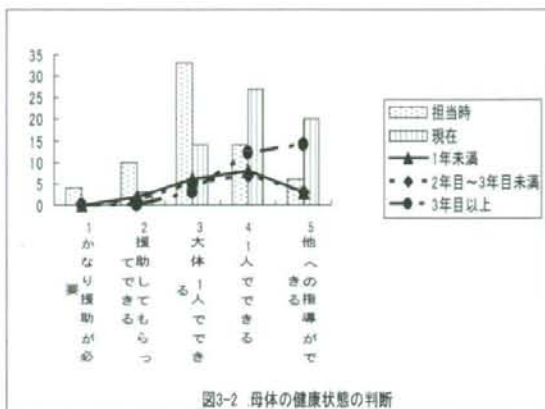


図3-2 母体の健康状態の判断

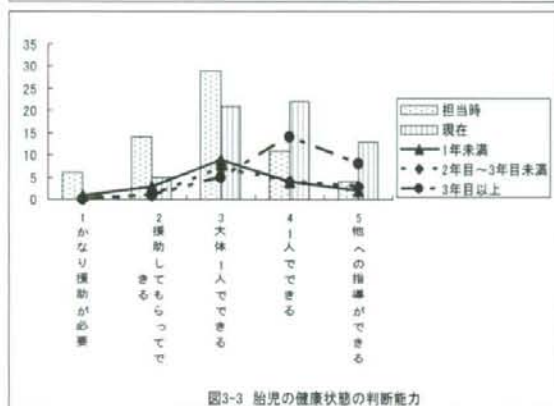


図3-3 胎児の健康状態の判断能力

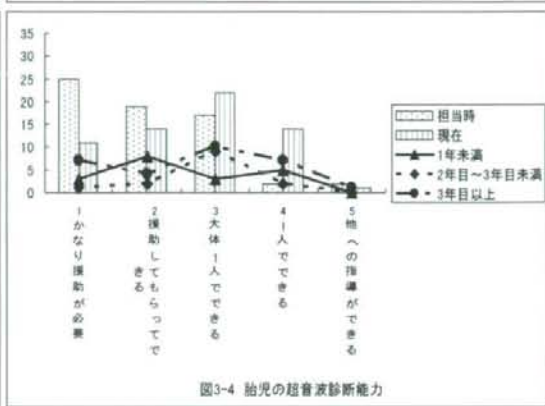


図3-4 胎児の超音波診断能力

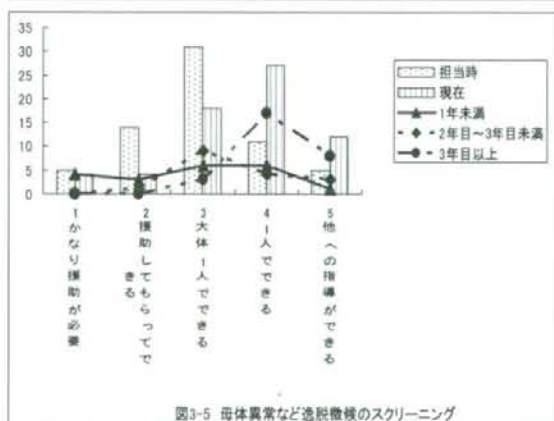


図3-5 母体異常など造形徴候のスクリーニング

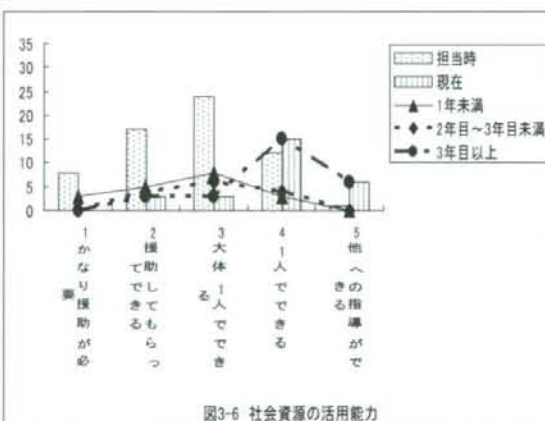


図3-6 社会資源の活用能力

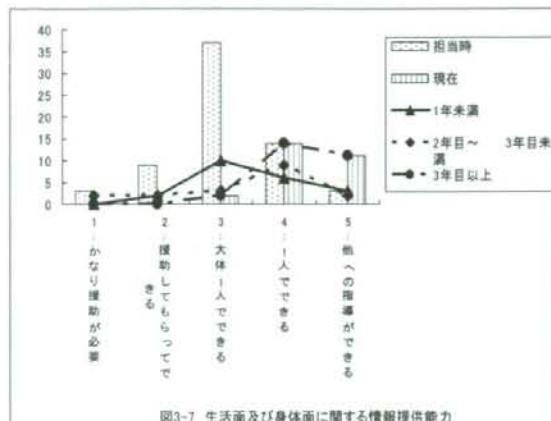


図3-7 生活面及び身体面に関する情報提供能力

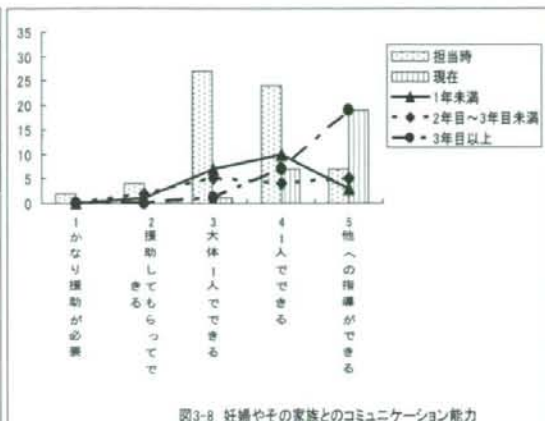


図3-8 妊婦やその家族とのコミュニケーション能力

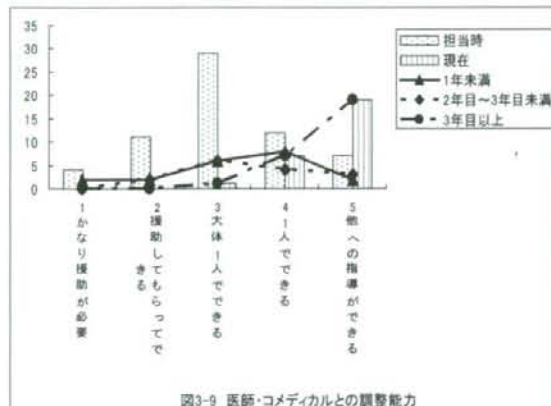


図3-9 医師・コメディカルとの調整能力

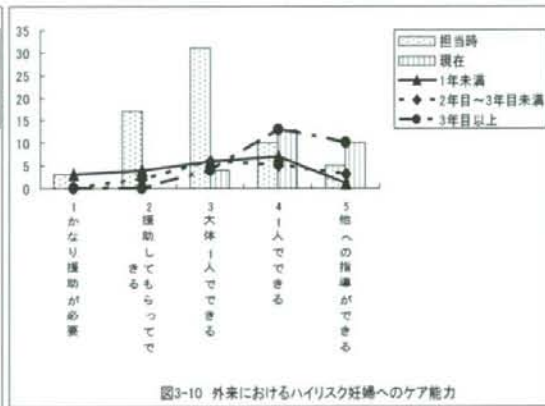


図3-10 外来におけるハイリスク妊婦へのケア能力

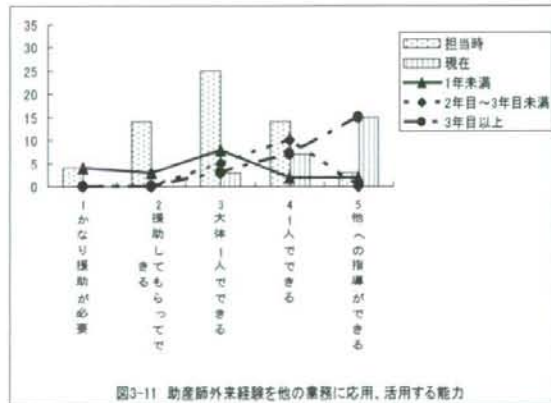


図3-11 助産師外来経験を他の業務に応用、活用する能力

表8 継続研修の有無と健診能力の差

| | 施設における | | N | 平均値 | 標準偏差 | 自由度 | t 値 | 有意確率 (両側) |
|------------------------|---------|----|----|-------------|------|-------|---------|--------------|
| | 継続研修の有無 | | | | | | | |
| 現在の妊婦の健康診査能力 | なし | あり | 31 | 3.77 ± 0.16 | 68 | -2.11 | 0.03* | |
| | あり | なし | 39 | 4.19 ± 0.12 | 60 | -2.08 | | |
| 現在の母体の健康状態の判断 | なし | あり | 28 | 3.89 ± 0.88 | 66 | -1.20 | 0.233 | |
| | あり | なし | 38 | 4.14 ± 0.81 | 61 | -1.19 | | |
| 現在の胎児の健康状態の判断能力 | なし | あり | 28 | 3.38 ± 0.97 | 64 | -2.49 | 0.015* | |
| | あり | なし | 36 | 3.94 ± 0.86 | 59 | -2.45 | | |
| 現在の胎児の超音波診断 | なし | あり | 28 | 2.54 ± 1.14 | 64 | -0.91 | 0.367 | |
| | あり | なし | 36 | 2.78 ± 0.99 | 57 | -0.89 | | |
| 現在の母体異常など逸脱徴候のスクリーニング | なし | あり | 28 | 3.29 ± 1.05 | 67 | -2.31 | 0.023* | |
| | あり | なし | 39 | 3.87 ± 1.00 | 61 | -2.30 | | |
| 現在の社会資源の活用能力 | なし | あり | 28 | 3.04 ± 0.92 | 62 | -1.66 | 0.103 | |
| | あり | なし | 34 | 3.47 ± 1.11 | 61 | -1.69 | | |
| 現在の生活面及び身体面に関する情報提供能力 | なし | あり | 29 | 3.41 ± 1.05 | 68 | -3.03 | 0.003** | |
| | あり | なし | 39 | 4.10 ± 0.82 | 56 | -2.92 | | |
| 現在の妊婦及び家族とのコミュニケーション能力 | なし | あり | 29 | 3.86 ± 0.99 | 65 | -2.49 | 0.015* | |
| | あり | なし | 37 | 4.39 ± 0.74 | 48 | -2.41 | | |
| 現在の医師やコメディカルとの調整能力 | なし | あり | 29 | 3.62 ± 1.24 | 65 | -2.23 | 0.02* | |
| | あり | なし | 35 | 4.20 ± 0.83 | 52 | -2.15 | | |
| 現在の外来におけるハイリスク妊婦へのケア | なし | あり | 29 | 3.29 ± 1.10 | 67 | -2.75 | 0.007** | |
| | あり | なし | 37 | 3.99 ± 0.95 | 62 | -2.70 | | |
| 現在の助産師業務を他の業務へ活用する能力 | なし | あり | 29 | 3.38 ± 1.24 | 62 | -2.43 | 0.017* | |
| | あり | なし | 32 | 4.06 ± 0.95 | 58 | -2.40 | | |

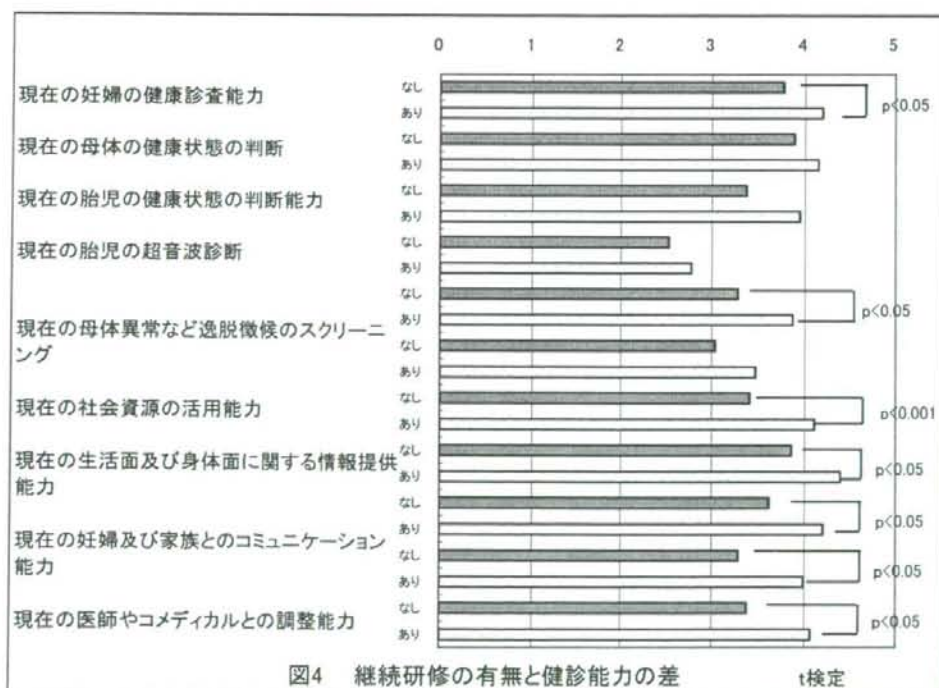


表9 フィードバック及び監査の有無と健診能力の差

| | フィードバックの有無 | N | 平均値 | 標準偏差 | 自由度 | t値 | 有意確率(両側) |
|------------------------|------------|----|--------|------|-----|-------|----------|
| 現在の妊婦の健康診査能力 | なし | 24 | 3.83 ± | 0.96 | 68 | -1.25 | 0.21 |
| | あり | 46 | 4.09 ± | 0.77 | 38 | -1.16 | |
| 現在の母体の健康状態の判断 | なし | 23 | 3.83 ± | 0.83 | 66 | -1.51 | 0.14 |
| | あり | 43 | 4.15 ± | 0.83 | 43 | -1.51 | |
| 現在の胎児の健康状態の判断能力 | なし | 21 | 3.62 ± | 1.12 | 64 | -0.45 | 0.66 |
| | あり | 43 | 3.73 ± | 0.86 | 31 | -0.41 | |
| 現在の胎児の超音波診断 | なし | 18 | 2.33 ± | 1.14 | 64 | -1.63 | 0.11 |
| | あり | 46 | 2.80 ± | 1.00 | 27 | -1.54 | |
| 現在の母体異常など逸脱徴候のスクリーニング | なし | 22 | 3.45 ± | 1.14 | 67 | -0.93 | 0.35 |
| | あり | 45 | 3.71 ± | 1.01 | 36 | -0.89 | |
| 現在の社会資源の活用能力 | なし | 19 | 3.05 ± | 0.97 | 62 | -1.11 | 0.27 |
| | あり | 43 | 3.37 ± | 1.07 | 36 | -1.16 | |
| 現在の生活面及び身体面に関する情報提供能力 | なし | 22 | 3.73 ± | 1.16 | 68 | -0.47 | 0.64 |
| | あり | 46 | 3.85 ± | 0.89 | 32 | -0.43 | |
| 現在の妊婦及び家族とのコミュニケーション能力 | なし | 20 | 3.85 ± | 1.04 | 65 | -1.90 | 0.06 |
| | あり | 46 | 4.29 ± | 0.79 | 32 | -1.70 | |
| 現在の医師やコメディカルとの調整能力 | なし | 20 | 3.45 ± | 1.23 | 65 | -2.57 | 0.01** |
| | あり | 44 | 4.16 ± | 0.91 | 33 | -2.30 | |
| 現在の外来におけるハイリスク妊婦へのケア | なし | 21 | 3.48 ± | 1.17 | 67 | -1.07 | 0.29 |
| | あり | 45 | 3.78 ± | 1.01 | 36 | -1.02 | |
| 現在の助産師業務を他の業務へ活用する能力 | なし | 20 | 3.35 ± | 1.35 | 62 | -1.90 | 0.06 |
| | あり | 41 | 3.93 ± | 0.98 | 31 | -1.70 | |

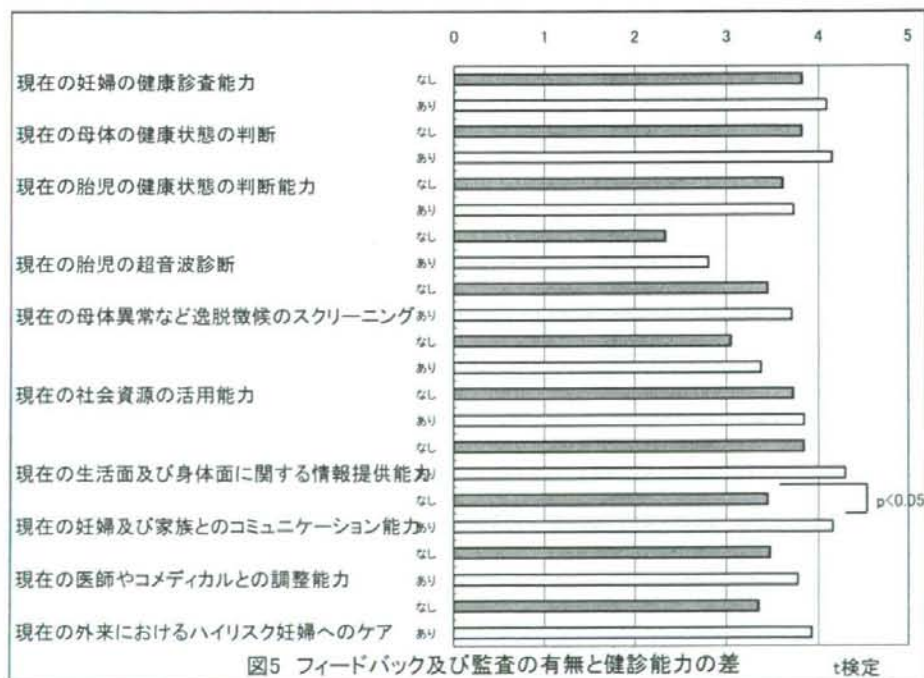


表10 妊婦にとってのメリット

| | |
|--------------|--|
| | 診療の待ち時間が短い |
| | 待ち時間の短縮 |
| | 待ち時間がとても短いあるいは無い |
| | 待ち時間がない |
| | 待ち時間の短縮 |
| 待ち時間の短縮(12) | 待ち時間が少ない |
| | 待ち時間が少ない |
| | 待ち時間が少ない |
| | 予約制なので決まった時間で健診が終了する(待ち時間がない) |
| | 待ち時間が少ない、 |
| | 待ち時間が無く |
| | 健診での待ち時間が少ない |
| | 時間もあるためゆっくり話すことができ、また話やすい |
| | ゆっくり話が聞いてもらえる |
| | 時間に追われず患者の訴えをよく聞くことができる |
| | ゆったりとつろいだ雰囲気妊健を受けることができ、疑問点に対し詳しく聞くことができる |
| | 完全予約制で、30～60分の枠で行っているが、その中で、不安に思っていることや、分からないことを納得するまで聞くことができる。Drの健診であると、10～15分という短時間になってしまうので、長い時間がとれる助産師外来は良いと思う |
| | ゆっくり話せることによる精神的な援助。相談しやすい |
| | Drより長い時間を使って検診を受けることができる |
| | 30分という決められた時間と場所が確保され、ゆっくりと話をすることができ、不安や質問を聞きやすいと思う |
| | 診察時間に余裕があり、充実した保健指導を受けられる |
| | ゆっくり話ができる |
| | 予約制で、30分/1人と時間にゆとりがあり、聞きやすい環境がある。 |
| | 相談しやすい(時間がゆっくり取れるため) |
| | ゆっくり時間をかけて助産師と話ができ安心できる |
| | 時間がたっぷりあるので、色々聞ける |
| 健診時間のゆとり(31) | 当院では、1人当たり30分の診療時間をとっているため、焦らずに過ごせる |
| | 落ち着いてゆっくり話せる環境 |
| | 時間をかけてゆったりとした中で、色々質問し、ゆっくり話ができる |
| | 話ができる時間がある |
| | 時間のゆとりがある |
| | ゆっくり時間をとって話ができるため、安心につながる |
| | 短い妊健では、伝えられない疑問や質問をじっくり聞くことができる。 |
| | ゆっくりと話ができる、聞けることでの安心感 |
| | ゆっくりと相談ができる |
| | ゆっくり助産師と話ができる |
| | 相談しやすい |
| | エコーをゆっくりと見られて、赤ちゃんに対する思いがやさしく表出される |
| | ゆっくり話ができ、不安や疑問を解消できる。 |
| | ゆっくり話ができる |
| | 助産師とゆっくり話す機会を設けることで、不安などが軽減できる |
| | 話す場になる |
| | ゆっくり関わることで、精神的サポートが得られる |

| | |
|----------------------------------|--|
| | <p>病棟で働く助産師と外来中にコミュニケーションがとれる</p> <p>医療(治療)としての視点だけでなくケアの継続性(少数の同じ助産師が対応できればより密な対応が可能と思われる)</p> <p>顔見知りのスタッフが入院後も対応してくれる</p> <p>外来から面識があることで、安心感がある。助産師が決まっているので、コミュニケーションがとりやすい。</p> <p>外来から関わってもらうことで、入院後も安心が得られる</p> <p>分娩の前に助産師と話をしたり顔がわかること</p> <p>病棟の助産師が関わるることによって、分娩時にあまり緊張しない</p> <p>医師とは違う、お産や病院の専門スタッフと知り合い、緊張がほぐれたり、質問をしたり、相談できる</p> <p>信頼関係ができる</p> <p>顔見知り似合っている安心感がある</p> <p>入院してから安心</p> <p>助産師とのコミュニケーションが密になり、安心感を得られる。</p> <p>お産をとってもらう人に自分のことを分かってもらえる</p> <p>妊娠分娩に対して、自分の思いを伝えられ安心できる</p> <p>病棟スタッフが、知っている人の顔を外来にもいることは心強い(精神的な安らぎ)</p> <p>プライマリ助産師である安心感が安産へつながる</p> <p>もっと助産師を身近に感じることができると思う</p> <p>スタッフと知り合う機会となるため、安心してお産できる1つの要素にはなる</p> <p>助産師と関わる機会を持つことで出産で入院する際、より身近に感じやすい。</p> <p>助産師という立場の人に慣れる</p> <p>助産師と顔見知りになって入院時の不安が軽くなる</p> <p>分娩時等、入院時に知っている助産師がいることで安心しやすい</p> <p>MWを知ることができる</p> <p>同じMWにあたるなら安心感、相談しやすい</p> <p>継続的にサポートしているからこそ、その人が分かる部分がある</p> <p>出産、母乳育児で身近なサポート者となる助産師を妊娠中から身近な存在として感じられる</p> <p>担当者が明確である</p> <p>外来であつているスタッフと分娩時も会うことができる可能性があり、安心感につながる可能性がある</p> <p>助産師の継続的関係づくり</p> |
| 継続ケア (29) | |
| | <p>自分自身の要望を伝えることができやすい</p> <p>写真などを差し上げることにより父親に説明したり、会話がはずむ。</p> <p>助産師と一定の時間、妊娠や生活についての不安なことなどを話す機会となり、精神的なフォローをしてもらうことができる</p> <p>個別に指導できる時間がある</p> <p>即実践できるような個別的な指導が受けられる</p> <p>不安や悩みなどを話して聞いてもらえる</p> <p>助言が具体的で後日も一緒に評価や修正ができる</p> <p>生活に即した指導が受けられる</p> <p>個別保健指導が充ちられる</p> <p>個別的なケアがうけられる</p> <p>個別的で有益な生活に根付いた支援を受けられる</p> <p>対話の中で問題解決できたり、それに対する評価がもらえる</p> |
| 個別ケア (12) | |
| | <p>育児のこと出産のことまで幅広く聞ける</p> <p>生活指導の役に立つ</p> <p>Drに尋ねにくい日常生活のことなど細かいことも聞ける</p> <p>助産師だと日常生活のことを含めて聞きやすい</p> <p>日常的な面での質問、ささやかな質問など、医師に聞くのとは違った質問をしやすい</p> <p>医師は児の発育や切迫徴候など医学的な側面がメインだが、分娩や育児に向けての身体の準備、物品の準備など産婦自身ですべきことについて話合えることができる</p> <p>医師よりも気軽に日常生活に即したことも相談できる</p> <p>医師からは得られにくい生活上のアドバイスが個別に受けられる</p> <p>おそらく、医師と話すより助産師と話した方が実践的で役立つと思う</p> <p>生活面での具体的な悩みや相談ができたり、アドバイスを受けられる</p> |
| 生活上の助 言を受けるこ とができる (10) | |

| | |
|--------------------|--|
| | 相談したいことが相談できる 話したい、聞きたいことが直接伝えられる 相談しやすい Drよりも話がしやすい(流れ作業にならず、話が切れない) やさしくゆったりした雰囲気 相談しやすい 助産師と話すことで、医師には聞けないことが聞けたり不安解消につながるのではないかと Drには聞けないことは、質問できる可能性がある 聞きたい事が聞ける なんでも話せる 話しやすい環境である |
| 相談のしやすさ(24) | 質問しやすい Drに質問しにくい内容等を聞くことができる 相談しやすい 話しやすい 話やすい 気軽に質問できる 話しやすい Drとの違い、聞きやすい雰囲気や環境 助産師と話すことにより、普段聞けない疑問や不安を表出できる 医師よりも話しやすい雰囲気を提供されるため、不安を表出しやすい 安心して自分の不安や疑問を話すことができる Drには相談しづらい夫や姑、子育てのことなど 相談しやすい 聞きたいことが聞ける雰囲気にある |
| 妊婦の主体性を高める(16) | 自己管理能力や目標意識の向上 妊婦自身のセルフエフィカシーを高めることができる(基本的に正常な経過をたどっている方が対象なので) 自己管理能力の向上 主体的に妊娠や分娩に臨める 信頼関係が生じ、気持ちを素直にぶつけることができ、主体的に妊娠や分娩に臨める セルフケア能力が高まることで、より正常な妊娠経過を送ることができる 細かな指導、生活面からのアドバイスにより自己管理に対する意識が高まる 助産師の指導やケアによって自分の身体を見直す機会になる 助産師とかかわることにより、出産は病気ではないことを感じられる可能性がある 本来のセルフケアが引き出されやすい 妊婦自身が力を引き出される 機器によって知る自身の身体や児の情報とは違って、五感によって自身も児も実感できるというのは、妊婦の主体性を伸ばすためにも有効 異常を発見するという視点ではなく、より健康により快適にという視点で、過ごせるようになる 自分のニーズの実現(何を大切にしたいか、何を優先するかを考え実践できる) 正常であると認識する 自分の身体の中で起きていることを知り、自分と向き合える |
| 女性としての視点の共有(8) | 同じ女性として気軽に聞ける 女性同士で話しやすい 女性同士 女性同士なので質問、不安など聞きやすい環境 女性の視点でかかわることができる 女性同士なので話しにくいことも相談できる 女性なので話やすい 男のDrに言いにくい、聞きにくいことが助産師には言いやすい。 |
| 安心感の増加(5) | 安心感の増加 助産師に相談に乗ってもらうことで安心できる 分娩に対する不安を少しでも取り除ける 不安の軽減 精神面の不安等の緩和 |
| 健診の自由度の大きさ(4) | 家族や上の子が一緒でも気兼ねなく自由に入室できる 家族連れで受診でき、上の子がいる妊婦には特に良い 家族ぐるみ 健診と指導が同時に受けられる |
| 医師との役割分担から生じる利点(1) | 医師外来、助産師外来のメリットを直接享受できること |
| その他(4) | 保健指導の充実 出産への知識が習得できる 妊婦さんのストレス解消 コミュニケーションがとれる |

表11 助産師にとってのメリット

| | |
|---------------|---|
| 継続看護 (16) | <p>外来から病棟と一環した看護を提供できる 外来から面識があると、分娩時、産褥期のケアがスムーズにできる(コミュニケーションがとりやすい) 早めに指導ができる(2)</p> <p>自分が外来で対応した産婦や妊婦のその後に注意が向くようになると思う。妊婦から産婦となって入院してきた際、モチベーションが違うと思う</p> <p>病棟勤務だけだと分娩産褥期に集中しがちだが、妊娠中に抱きやすい不安等が分かり、ケアにいかなせる</p> <p>同じ妊婦を妊娠中から見ることにより、妊娠→出産→分娩→産後を流れてみることができる</p> <p>入院後に良くある問題等を妊娠中からアドバイスすることで改善に向かせやすい</p> <p>継続した看護ができる(2)</p> <p>妊婦とのコミュニケーションが取れて、分娩時にかかりやすい</p> <p>継続的な妊婦の変化を知ることができる(2)</p> <p>妊婦と顔見知りになり、一部継続的ケアにつながる</p> <p>継続してケアができる(2)</p> <p>継続看護の一環(2)</p> |
| 信頼関係 (17) | <p>分娩前に妊婦さんとの関係を築ける</p> <p>産婦さんとの面識ができる(2)</p> <p>患者さんとの関わる機会が多い</p> <p>妊婦と良好なコミュニケーションがとれる(2)</p> <p>妊婦及びその家族とのコミュニケーション (3)</p> <p>コミュニケーションがとりやすい</p> <p>お互いによく知り合うことで、対象が求めている情報、技術の提供ができ信頼関係も得</p> <p>妊婦の思いを引き寄せる</p> <p>信頼関係が築ける(4)</p> <p>コミュニケーションが良くなる(妊婦との)</p> |
| 対象者理解 (19) | <p>妊娠経過の把握(3)</p> <p>妊娠中の母体、胎児の変化を把握できる</p> <p>スクリーニング効果</p> <p>妊婦の全身状態を全体的に捉えていく力の向上(母体、胎児すべて)</p> <p>患者さんの把握ができる</p> <p>ニーズを把握しやすい</p> <p>妊婦を把握しやすい</p> <p>母体-胎児だけでなく、社会的・発達の側面や、健康管理能力など全般的な評価や予測する機会を与えられる</p> <p>妊婦と全体像を把握できる</p> <p>早いうちから接しておくことで全人格的にその人のことを理解、アセスメント、個別的な関わりに生かしていくことができる</p> <p>情報を得やすい(内にある問題など)(2)</p> <p>患者さんとゆっくり話をすることができ、患者さんに対する個別的な理解の場となっている</p> <p>対象が広がり、より細やかな判断をする場面が増える</p> <p>生活の視点で情報収集やアセスメントができる</p> <p>外来の妊健では詳しく聞き出せない生活習慣などの情報を把握しやすい</p> <p>ゆっくり妊婦と関わり、細かく情報収集アセスメントできるため、より個性のあるケア(産後の予測されるものも含む)や希望する分娩などができる</p> <p>妊婦と向き合っ細かい部分への指導ができる</p> <p>実際の妊婦の思いを捉えやすい</p> <p>妊婦の抱えている問題が、すぐに伝える</p> |

| | | |
|------------|---------------|--|
| スキルアップ(42) | 知識・技術力の向上(33) | <p>超音波の見方や妊娠期の診断が前よりもできるようになった 外来に出て、妊婦健診を行うことによって、自己の技術の向上になる 助産師として診断技術の向上(2) 助産技術や知識の向上 技術(技)の向上(3) 外来(エコー等)技術のスキルアップ スキルアップ(5) エンパワメントとできる 判断能力の向上 助産師としての知識技術向上につながる(2) 助産診断技術や能力のレベルアップにつながる 五感をフル活用するため、自身のスキルアップに大いにつながる 観察、診断、能力があがる 超音波エコーの習得(2) 助産師としての能力、スキルの向上(2) 超音波診断能力の向上 助産師の専門技術の向上(2) アセスメント能力の向上 コーディネーション能力の向上 自己研鑽 助産師の専門性を高めることが出来る レオポルドなどで触診を行うことで助産師としてのスキルアップとなる</p> |
| | 学び(9) | <p>勉強になる 助産師も妊娠の経過や週数に応じたケア(マイナートラブル改善法等)を考え、学ぶこと 病棟ではわからなかった妊娠の流れを理解し、病棟内で活用できることがある マイナートラブルや日常の困ったことなどにアドバイスするキャバを広げる動機付けを得られる 妊娠期間の経過やアドバイス方法、スクリーニング方法などを学べる 入院中の切迫妊婦などではなく、外来に来る正常妊婦を見ることで、ノーマルでの妊娠経過を知ることができる 色々な週数の妊婦とかかわれる 妊娠期間について学ぶことができる 助産師自身の判断やどれだけ生活人としての知恵をたくわえているかで、ケアの幅が違う部分はあると思うが、妊娠生活はみんな違うので、妊婦さんから教えられることは、身体の変化や心の変化で多々ある</p> |

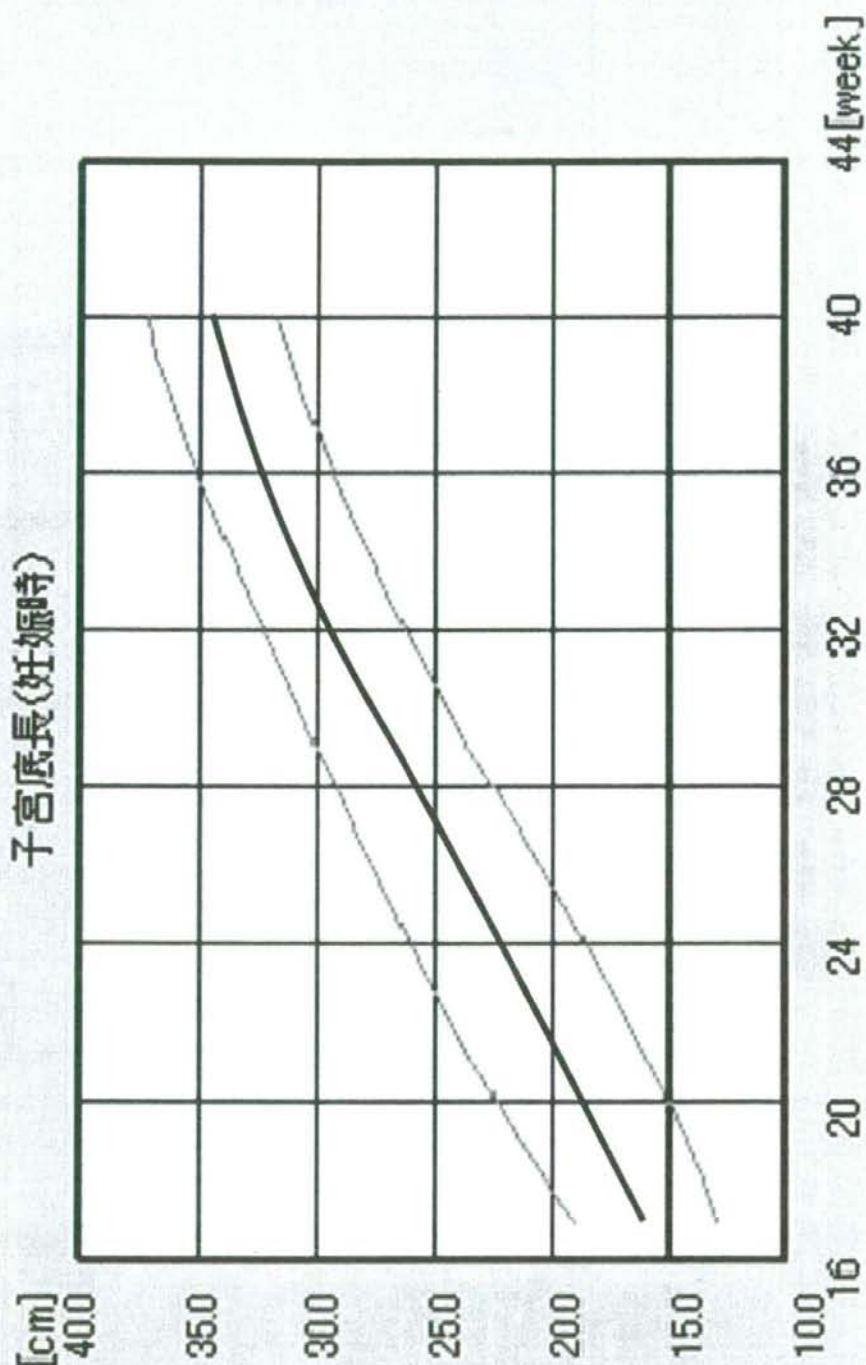
| | | |
|--------------|---|---|
| やりがい (50) | モチベーション (12) | コミュニケーションがとれ、充実感が増す モチベーションの向上(2) 助産師のスキルやモチベーションの向上 MWとしてのモチベーションの向上 医師による診察の介助ではなく、自分が主体的になって対象にかかわるため、モチベーションアップにつながる 自らのキャリアアップの目標 自分自身のキャリアアップ (観察、診断、能力があがるあげるための)モチベーションが高くなる 妊婦との関わりが増える満足感達成感がある 自信がつく 助産師の主体性やモチベーションのアップ |
| | 評価(4) | 指導後のことが効果があるかどうかを確認することができる 妊婦との信頼関係の評価 1人の妊婦の健診から家族関係までかかわり、評価を行うことにより、自分の助産師としての質の向上につながる 母体一胎児だけでなく、社会的・発達の側面や、健康管理能力など全般的な評価や予測する機会を与えられる。また、それを関わりの中で評価できる |
| | 専門性の発揮 (20) | 助産師の立場から、色々とアドバイスができる(正常範囲内であれば)。 女性として自然分娩や母乳育児の素晴らしさ、メリットを伝えることができる 妊婦とゆっくりに関わることができるため、満足度の向上につながりやすい 能力の発揮 外来だけでは指導しきれない点や細かい個別指導がゆっくりに行える 専門性を発揮できる場として存在する 助産師としての能力が発揮される 妊婦のニーズに合わせたケアができる 専門性の発揮(身体面だけでなく生活の視点からも健康の保持増進を高めていくためのスキルアップができて、病棟での看護にも反映させることができる) 医師側の視点が違う生活や精神面からのアプローチすること 助産師の力で正常な妊娠分娩育児を導くことができる 当院で出産を迎える妊婦に目がいく事のできるだけ安産にという意識で関わりを持ちやすい 専門性が発揮できる点(3) 妊娠中から分娩に向けての指導がきちんとできる 自身の知識、技術、コミュニケーション能力、マネジメント能力などが試される。また深められる (時間をとってゆっくりに話すことで)セルフケア能力を引き出せる 助産師としての能力を最大限活用できる 専門職業人としての充実感や達成感 |
| | 責任感とそれに伴う役割意識 (14) | 継続的な関わりを持つことで、より責任感が高まり、自立性の発揮にもつながる 責任感が強くなる(2) 助産師としての責任感が良い意味で上昇する 自分で外来を行う責任は、自己研鑽やスキルアップにつながる 助産師自立への一歩と考える(助産師外来が院内助産院へとつながっていく) 責任の重さを感じながら行える 助産師としての自覚、プライド、責任感が強くなる 責任が大きい分、妊婦さんとの関わりで技術が向上する観察の視点がより充実していくと思う 責任を持って相手と関わる姿勢が養われる 助産診断に対する責任感 責任感とやりがい(2) プライマリー助産師になれる |
| ゆとり(6) | 妊婦さんとゆっくりに関わる時間がもてる 1人の妊婦と話す機会が増える ゆっくりに話ができる 普段の妊婦健診より時間をかけて保健指導ができる ゆっくりに妊婦さんと過ごすことができる ゆっくりに妊婦とかわれる | |
| その他(3) | 関わり少ないせいで色々なクレームや満足度を得られていない原因となっている気がする 特に思い浮かばない 実際お産に関わるスタッフが妊娠期より、顔を見てケアできる場はもつとあった方がよい | |

子宮底長曲線

子宮底長

妊娠期間表示

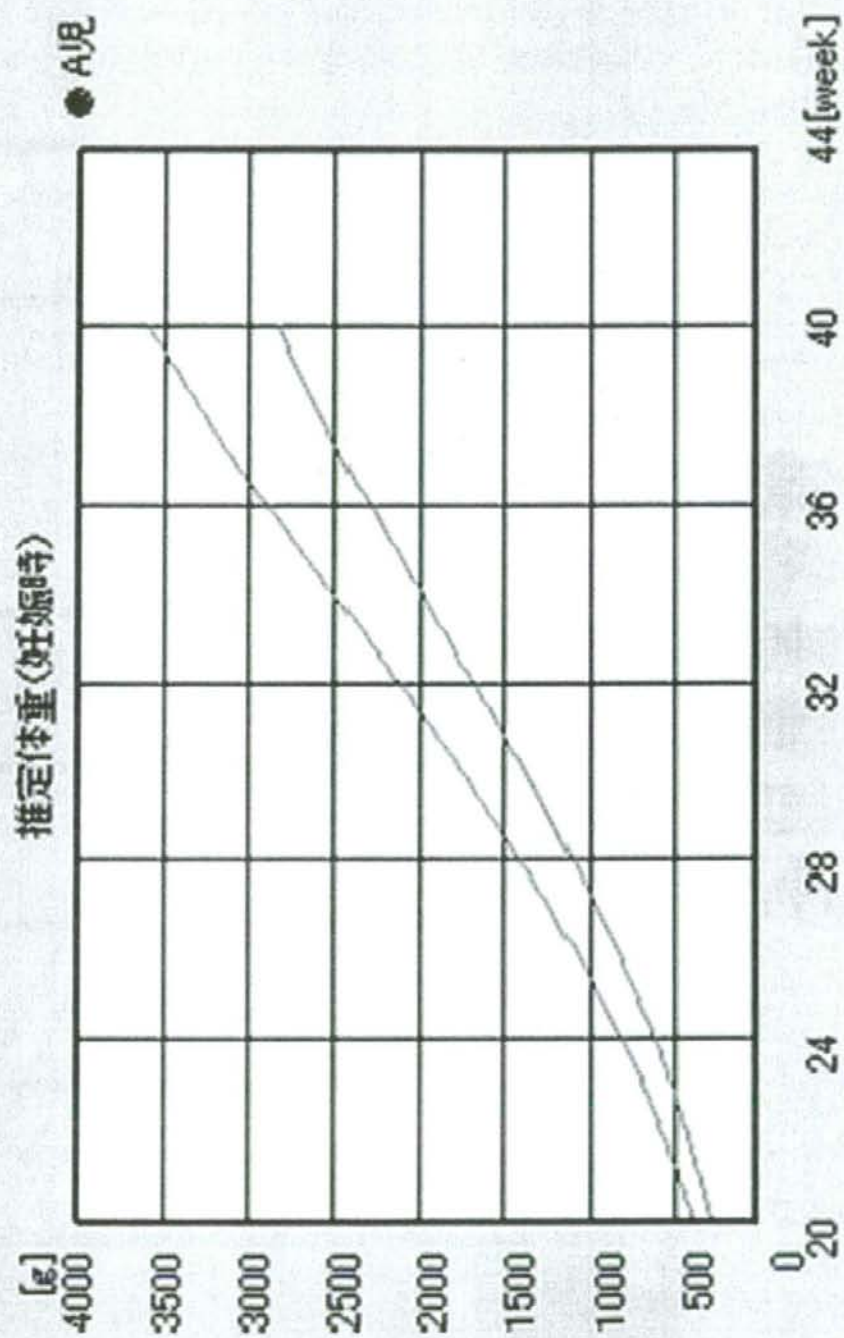
子宮底長(妊娠時)



推定児体重曲線

推定体重

妊娠期間表示



妊娠中に発症しやすい疾患のスクリーニング検査

| 疾患名 | スクリーニング検査 |
|-----|-----------|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

1-1. GDM(妊娠糖尿病)



① リスク因子の確認

| 基本情報 ／家族歴 | 産科情報 | 既往歴 | 基礎 疾患 |
|--------------|------|-----|----------|
| | | | |

1-2. GDM(妊娠糖尿病)

② スクリーニング検査

【妊娠初期】

随時血糖 (≥100mg/dL)

【妊娠中期(妊娠24~28週)】

50gGCT (1時間値 ≥ 140mg/dL)

いずれかを満たせば、
疑いありとして75gOGTTを実施



75gOGTT検査

| 血糖値(mg/dL) | 静脈血漿 | 毛細血管全血 | 静脈全血 |
|------------|------|--------|------|
| 空腹時値 | | | |
| 1時間値 | | | |
| 2時間値 | | | |

2つ以上満たせばGDMと診断

2-1. 切迫早産

① リスク因子の確認

| 基本情報 ／家族歴 | 産科情報 | 既往歴 | 基礎疾患 |
|--------------|------|-----|------|
| | | | |

2-2. 切迫早産

② リスク判定の確認

1. 規則的な子宮収縮または破水
2. 未破水で頸管の開大が進行するとき、
3. 子宮口2cm以上の開大または頸管50%以上の展退
4. 頸管長が25mm以下に短縮している場合]

1～3のいずれかの
症状を認める

③ スクリーニング検査

【妊婦健診時間診】

性器出血の有無
子宮収縮の有無

【妊娠初期（妊娠8～12週）】

腔分泌液Gram染色
（細菌性腔症のチェック）

【妊娠中期（妊娠20～24週）】

経膈超音波による頸管長測定

【妊娠末期】

内診によるBishop scoreの評価
（子宮収縮“有り”の場合）

3-1. PROM(前期破水)



① リスク因子の確認

| 基本情報 ／家族歴 | 産科情報 | 既往歴 | 現病歴 |
|--------------|------|-----|-----|
| | | | |

② リスク判定の確認

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |

4-1. 前置胎盤



① リスク因子の確認

| 基本情報 ／ 家族歴 | 産科情報 | 既往歴 | 基礎疾患 |
|------------------|------|-----|------|
| | | | |

妊娠20～24週の頸管長測定時に前置胎盤の有無を確認する。
また、前置胎盤を疑われた場合はプレッシャーテストを行い偽陽性でないことを確認した方が診断の精度が向上するのでより望ましい。

4-2. 前置胎盤

②リスク判定の確認

【20-24W時の低置胎盤で搬送する場合】



【30-32W時の低置胎盤で搬送する場合】

